

温身平森林セラピー基地でナラ枯れ予防事業を実施しました

小国町小玉川の「温身平森林セラピー基地」周辺にもカシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害が拡大しています。温身平森林セラピー基地には、胸高の幹周りが3mを越えるミズナラの巨木が多数あり、これらを含めたミズナラの保全が課題となっています。

置賜森林管理署では、平成21年6月8日に、温身平森林セラピー基地において、小国町、山形県森林研究研修センター、山形県置賜総合支庁と連携・協力し、新潟大学農学部生産環境科学科の学生31名によるナラ枯れ予防作業実習を実施しました。

当日は、国有林38本、民有林15本のミズナラに、ドリル穿孔を行い、ナラ菌の繁殖を抑制する効果のある殺菌剤を注入する作業実習を行いました。慣れない作業に、最初は戸惑っていた学生も、回を重ねる度に慣れたきた様子で、楽しそうに作業をしていました。

注入作業が終わったグループは、講師の指導を受けてドリル穿孔の体験や殺菌剤の調合を実習しました。

天候にも恵まれ、実りある作業実習になりました。温身平森林セラピー基地のミズナラの巨木をはじめとする美しい樹々の緑がいつまでも健全に保たれることを願い、温身平を後にしました。

また、6月15日には、小国町森林セラピーアテンダントの皆さんと一緒に、殺菌剤の容器の回収作業を行いました。



(開会式の風景)



(林業普及指導員の指導)



(資材を背負子で運ぶ)



(殺菌剤注入の様子)